

団体・組織の概要

※太枠内、必須事項。その他は、該当する項目を記載してください。

団体/会社名	横浜市資源リサイクル事業協同組合		
代表者	理事長 高田哲二	担当者	根岸孝昭 戸川孝則
所在地	〒 221-0054 横浜市神奈川区山内町 1 3 番地 TEL: 0 4 5 - 4 4 4 - 2 5 3 1 FAX: 0 4 5 - 4 4 4 - 2 5 3 2 E-mail: togawa@recycleddesign.or.jp		
設立の経緯 ／沿革	<p>横浜市資源リサイクル事業協同組合は、平成 4 年 1 0 月に設立した中小企業による事業協同組合で、循環型社会に向けた社会の変革をふまえ、社会的企業としての組合・リサイクル業界が中心となり、市民や事業者、行政と連携・協力し合っ て循環型社会を担っていく地域社会形成を目指して取り組んでいる。</p> <p>平成 4 年 1 0 月 1 日 7 5 社にて設立 平成 6 年 9 月 「月刊リサイクルデザイン」 創刊 平成 1 2 年 9 月 官公需適格組合認可取得 平成 1 4 年 1 0 月 第 8 回リサイクルデザインフォーラム 「日韓合同子ども環境会議&環境絵日記発表会」開催 平成 1 5 年 2 月 「横浜エコ・リサイクルポート構想」発表 5 月 リサイクルポート山ノ内 稼働開始 平成 2 1 年 2 月 中期経営計画「りくみビジョン 2 0 2 0」を策定</p>		
団体の目的 ／事業概要	<p>横浜市内リサイクル業者の事業協同組合。設立年月日：平成 4 年 1 0 月 1 日。組 合員数：1 3 7 社。 リサイクルデザインサポーター：6 0 6 団体 1 8, 2 9 2 名（組合活動の市民 サポーター） 設立時より「リサイクルデザイン」の概念を基に活動している。これは、再生資 源業において「大量の再生資源の発生」が業界の繁栄となるのではなく、「循環 型社会の形成」が業界の命題であり責務であるという視点に立ち、再生資源業を 自治体と民間の中間事業として位置づけ、組合は公（Official）と民（Private）の良 いところを活かし、半公共的な視点から行政支援、民間支援のできる「共（Public ）」であるとするものである。本年 2 月には、活動中期ビジョン「りくみビジョ ン 2 0 2 0」を策定。静脈産業からの街づくり提案『持続可能な循環型都市ヨコ ハマ（リサイクルデザインタウン）』づくりをめざしている。</p>		
活動・事業実績 （企業の場合は 環境に関する 実績を記入）	<ul style="list-style-type: none"> 当組合の取得している ISO14001 の EMS において、グリーン購入（事務用品・OA 用紙）を著しい環境側面に特定し、目標を設定しグリーン購入を進めている。 当組合で販売している「りくみのトレペ」および「りくみのティッシュ」はグリーン購入法適合を受けエコ商品ねっとでも掲載されている。 当組合で販売している古紙分別梱包用バンドの「小結くん」はエコマーク認定を受け販売をしている。 組合事業として ISO14001 のグループ認証取得支援をおこなっており、中小企業である組合員の認証取得へのハードルを低減することで、中小企業でもおこなえるグリーン購入の普及に努めている。 		
ホームページ	http://www.recycleddesign.or.jp/		
設立年月	1 9 9 3 年 1 0 月	* 認証年月日（法人団体のみ）	1 9 9 3 年 1 0 月 4 日
資本金/基本財産 （企業・財団）	5, 9 5 0 万円	活動事業費/ 売上高（H20）	1, 2 0 8, 4 6 5, 9 3 0 円
組 織	<p>スタッフ/職員数 2 1 2 名（内 専従 2 1 2 名）</p> <p>個人会員 名 ; 法人会員 1 3 7 社 名 ; その他会員（賛助会員等）1 8, 2 9 2 名</p>		

政策のテーマ 子ども教育の「読む・書く・体験する」で循環型ライフスタイルを確立

■政策の分野

- ・環境パートナーシップにおける循環型社会の構築
- ・

■政策の手段

- ・調査研究

子どもの環境学習の影響・成果を調査する。その結果により、環境教育を推進する。

団体名：横浜市資源リサイクル事業協同組合

担当者名：根岸孝昭 戸川孝則

■キーワード	成果の調査	ライフスタイル	環境学習	民間活用	場の提供
--------	-------	---------	------	------	------

① 政策の目的

様々な地域、対象で環境学習が行われている。

当組合では、横浜市の学校・行政とも連携し、産・学・官の連携により、小学生を対象とした環境学習を展開している。

なかでも、「3R活動」には「納得」が必要であり、「納得」するには「気づき」の場を提供することが必要と考え、「読む・書く・体験する」というキーワードによる環境学習を行っている。

そこで、子どもの頃の学習が、大人になりどれだけ影響を及ぼしているかを調査し、さらに子どもの頃の学習内容による差異も調査し、環境学習の内容による効果を明確にすることとする。

その結果を用い、より地球温暖化防止の効果と環境貢献が高い環境学習のスタイルを構築する。

② 背景および現状の問題点

当組合は、横浜市内における資源回収業者による団体であり、資源分別は業界にとっての必須項目であった。分別が進むということは、業界としてのコスト削減となる一方で、取扱量が増えることにもなる。そこで、お客様でもある横浜市民に対して、環境情報の発信を始めました。しかしながら、3R活動そのものは、自分の手間と時間を使うため、「納得」のない情報の入手は、行動につながらない、という結論に至った。その「納得」を得るために、10年前より環境絵日記という取組みを始め、組合として「読む・書く・体験する」というキーワードで連携された事業を行っている。

地球温暖化防止への取組みは、行政・民間・国民すべてが行わなければならない時代となっている。チームマイナス6%からチャレンジ25へと、国民参加型運動が日本全体の対策推進に役立っている。しかしながら、まだまだ目標達成には様々な施策・政策が必要であることも事実。国民一人一人のライフスタイル変換のためには、子どもの頃から学習することにより、大人になるまでのライフスタイル、いわゆる生活のLCAにおいて無理することなくよりカーボンニュートラルな生活になる。そうすることにより、環境貢献することと便利さとを天秤にかけたときに、より環境貢献を選択する国民が増え、削減のベースを上げることが出来るはずである。

現在の環境学習・教育では、その場だけの教育が多く、また主体が行政の場合は予算消化型になっているのも否めない。かといって、民間のみの環境教育には、その企業のCSRの実績づくりになっているところもあり、より環境貢献を選択する国民を創生するところに至っていない。

現在は、地球温暖化という危機的状況が調査結果からも明らかとなり、資源の重要性や新エネルギーの開発及び活用が声高に叫ばれているものの、コストパフォーマンスの視点が命題とされ、なかなか一朝一夕には進んでいない。それを解決する策として言われているのは、ライフスタイルの変換であり、与えられたり強制されてすることではなく、自然とそうなることが必要である。そのためには子供の頃からの教育と、そこに「納得」が必要であり、かつ、「納得」に繋がる「気づき」が必要である。また、それをコミュニティから発信していくことが、現代社会におけるコミュニティの崩壊への対策ともなりうる。

③ 政策の概要

・「気づき→理解・納得→行動」のプロセスにおける「読む・書く・体験する」の相乗効果の検証
 既存の環境教育、環境学習は多くあり、大勢を対象に実施しているものも多数ある。また、エコ検定のように、環境啓発の取り組みとなる検定も出てきた。今回は、そうした単発であったり、継続しても様々な視点による事業の複合的な効果が期待できないものと比較し、より効果の高い環境学習・教育として「読む・書く・体験する」の相乗効果を実証するために、環境絵日記の応募者と未応募者に対しアンケート等を行い、調査する。

・「気づき→理解・納得→行動」のプロセス

①「3R」の実行に「気づき」が必要。



②リサイクルデザインの「環境絵日記」・「出前講座」・「分別体験」・「月刊リサイクルデザイン」といった、「読む・書く・体験する」という3つの取り組みは、気づきの場と納得の場によって、参加者の意識の中の3R活動を、教えられたものから納得して行動するものへと変換する。



③「環境絵日記」や「分別体験」を経験した子供は、経験しない子供よりも「3R」への取り組みの意識や環境意識が高くなっている。



④「環境絵日記」が10年経っていることから、10年前の環境絵日記応募者と未応募者では、資源化率や個人としての廃棄物の排出量などに違いが出る。

● 題名 江戸時代のリサイクルを学ぼう！ ●



おもしろくない。」「ゴミを減らすことも温暖化ストップにとても重要なことはみんな知っている。もし、江戸時代の人達を現代に連れて来ることが出来たら色々なリサイクルの知識や精神を教えてもらえたらいい。きっと、江戸時代の人が現代人の「ゴミを見た」「もったいない！」と

8月19日(火) 天気 ☀️

ほくは、本で、江戸時代が、今では考えられない程のリサイクル社会だったことを知った。ぼろぼろのかさや、げた、欠けた茶わんまで、直してもらつて何年も使った。なべを持って豆腐を買いに行く。野菜はもちろんなら売らだから、バックのゴミなんて、出るはずがない。灰まで買い取って肥料に使っていた。まるでリサイクルの画まりだ！

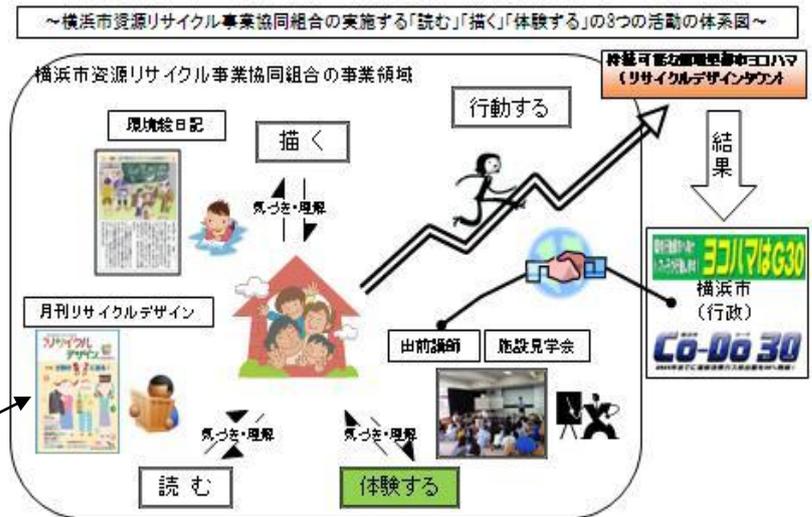
リサイクルデザイン大賞
加藤賢太さん(南区・石川小5年)

(環境絵日記平成20年度 大賞受賞作品)

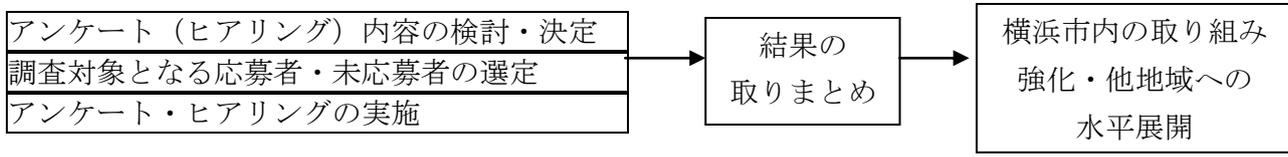
④ 政策の実施方法と全体の仕組み (必要に応じてフローチャートを用いてください)

「読む・書く・体験する」の環境教育が、循環型・省資源型の生活をする大人に成長させ、人生のLCAでより環境負荷の低い人間となっていく。それを、アンケートやヒアリングにより実証し、現在行っているイベントをより深く・広く実施していく。

月刊リサイクルデザイン



「気づき→理解(納得)→行動」プロセス
 ①読む: 月刊リサイクルデザイン→理解: 出前講座: 月刊リサイクルデザインのリサイクル情報によって、分別の必要性に気づき、出前講座の分別体験を通じて、分別の意識に理解(納得)する。そして、分別が自ら始めた行動(自主的行動)となり、持続可能な循環型都市ヨコハマ(リサイクルデザインタウン)に繋がっていく。この結果、「CO2削減」を達成することになる。
 ②書く: 出前講座→理解: 環境絵日記: 学校にまた出前講座によって、結果の地球に「分別が必要」といふことに気づき、理解したことを「環境絵日記」に表現する。「環境絵日記」を書くことにより、長寿社会の実現に必要な環境配慮行動の励みが多まり、「環境絵日記」がきっかけに家庭の意識となることで、その効果は2倍にも増える。



⑤ 政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

実施主体は横浜市資源リサイクル事業協同組合とする。

アンケート・ヒアリングの実施として、以下の協力先を予定とする。

- ・横浜市教育委員会
- ・横浜市環境創造局
- ・横浜市内小学校（白根小、西柴小、三ツ沢小、南太田小、あざみ野第一小、東希望ヶ丘、白根小若葉台北小、鶴ヶ峯小、磯子小 ※平成12年度「環境絵日記」特別賞受賞）
- ・武松事業デザイン工房㈱（月刊リサイクルデザイン編集室）
- ・企業組合エコ・アド（月刊リサイクルデザイン制作）

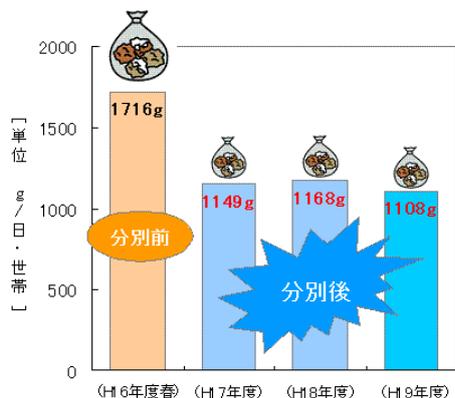
⑥ 政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

環境教育の効果の実証によって、「読む・書く・体験する」の仕組みを水平展開かつより対象年齢を広げて実施することで、実施地域の3R実施による資源化率の向上と廃棄物の減少が期待できる。また、低年齢から実施することで、環境分野への就業意識の高まりも期待でき、資源循環型・環境都市の創出も期待できる。

なお、過年度における当組合の活動実績と、直接的ではないが横浜市内の資源分別実施による焼却ごみの削減実績を記載する。

組合活動における15年度と20年度の比較

	平成15年度	平成20年度
月刊リサイクルデザイン発行部数	21,000部	81,000部
環境絵日記 応募数	3,175作品	9,548作品
資源とごみの分別体験 講座回数	36回	111回
リサイクルデザインサポーター	4,999名	13,817名
資源集団回収による 資源回収量	108,354トン	182,780トン



温暖化防止効果について：資源物のリサイクルによるCO2削減係数がないので資源集団回収による温暖化防止効果の算出できないが、横浜市発表のG30プランによる環境影響評価によると、平成19年度は平成13年度と比べて**約84万トンの二酸化炭素削減効果**があると発表されている。

平成16年度から始まったG30プランは、平成19年度に約35%の焼却ごみの削減となった。（横浜市ホームページより）

⑦ その他・特記事項

「読む」…「合言葉はもったいない」がキャッチフレーズ：リサイクル情報誌『月刊リサイクルデザイン』の発行。3Rの伝えることが目的。月刊のフリーペーパーで平成6年9月に創刊し、平成22年2月現在185号を発行（発行部数85,000部）

「描く」…夏休み1万人の子ども達が参加：小学生への『環境絵日記』コンクール。夏休みに市内の小学校の子ども達を対象に募集。平成12年からおこなっているこの取り組みは、平成21年度で10回目を迎え、応募作品は過去最高の10,316作品が集まった。

「体験する」…出前講師&施設見学会で年間100講座：市民向け3R普及啓発講座『資源とごみの分別体験』。平成15年度から本格事業化。出前講座が年間約40団体（年間合計6,000人）施設見学会が年間約60団体（年間合計2,000人）。応募者は市内小学校、町内会、市民団体。

「読む・書く・体験する」の活動が、グリーン購入に貢献していることの評価と、民間発でここまでの実績を評価され、グリーン購入ネットワークより平成21年度第11回グリーン購入大賞を受賞した。